

No.141 「日本体育大学 武道学科 マレーシア遠征」

60歳から75歳までが「人生最後の黄金期」で、未だ気力、体力が充実している時期と言われている。私はこの間の13年をマレーシアで、平日はゴルフ、週末は日本人会で空手指導を行なった。2016年には、日馬外交樹立60周年記念で、外務省が日本武道館傘下の、9現代武道と数ある古武道の中から3古武道の宗家、師範、指導者75名をマレーシアに派遣した。日本武道館とマレーシア日本大使館と協力して、マレーシア政府スポーツ省を通じて現地武道連盟との橋渡しをした。



2) 日本武道協議会 (9 武道)



3) 日本武道協議会 (3 古武道)



2019年に帰国してコロナの感染が始まった。もうマレーシアとの関係も無くなっていたと思っていた。ところがマレーシアの日本人会より、日体大武道学科のマレーシア遠征で、地元空手クラブとの交換稽古の要望が入ってきた。マレーシアでは空手の友人も沢山いて、又日本武道団派遣の仕事を通じて、マレーシア空手道連盟(MAKAF)との繋がりもできていた。今回、演武会の翌日に、地元武道クラブとの交換稽古として、MAKAFとの交流試合をするアレンジをさせて頂いた。



日本体育大学
スポーツ文化学部
伝統文化交流実習 2023
(マレーシア)
伝統文化交流発表会
ワークショップ



2023年2月11日(土) 伝統文化交流発表会 18:00~18:00
ワークショップ 18:00~18:30
[BUKITA STADIUM (ジュアラスタジアム)]

日本体育大学(日体大)では、武道や伝統芸能の専門家(指導者)になることを目指して、日々努力をしていますが、今回、日本の伝統文化を学んでいる、3年生約100名が、海外遠征に参加した。日体大では、これまでオーストラリア、ドイツ、ハワイ、シンガポールと実施してきたが、3年間コロナで中断していた。今回マレーシアで開催されることになった。

各武道の説明は、日体大パンフレットから抜粋して、今回学生が演武会で披露した写真を添付しました。。

弓道

太古、狩猟の道具として誕生した弓矢は、やがて戦争の武器となり、日本ではその後、競技用堂射として弓具が改良され、少しずつ変化を加えながら、今日まで外見上の大きな形状の変化を伴わずに継続しています。

一方で弓具はそこに神秘性を見出し、お祝いや魔を払う道具として、また五穀豊穡を願う儀式や物事の始まりを告げる道具としても用いられてきました。

弓道の神秘性と禅性は、日本文化の研究として広く世界中に伝えられ、現在は全世界で愛好されるようになりました。

1.和太鼓演奏「山河太鼓」

作詞は、夏の長良川を表現し、雷鳴・雷雨から介入する。豪雨は、峡谷を下り支流を集めて流れを早め、濁流となって溪流を走る。滝あり、放流あり、大波あり、と様々な流れを全身で表現しながら、やがて伊勢湾へ流れ込む情景を奏でる。



2.少林寺拳法

少林寺拳法は、開祖「宗道臣」により1947年に創始されました。その拳法は、開祖が中国に渡り学んだ拳法を、帰国後新しい拳法の体系として整理・再編されたものです。この少林寺拳法は、相手を倒して勝つことを目的とするのではなく、自分を見つめ、相手と共に上達を図るという修練経過を通じて自己を確立し、自他共楽の精神を養うものです。この思想と拳技は多くの人々の共感を呼び、心技体を養う護身術として国境を越え、民族を超えて広く普及しています。



3. 剣道

剣道は今から約1,000年ほど前に「日本刀」が製造されると共に始められ、多くの戦いを経て「武士」の最も重要な武術として位置づけられました。その練習の方法も「木刀」による『形稽古』から、今から約250年ほど前に作られた「竹刀」や「防具」の出現により実際に打ったり、突いたりする『打ち込み稽古』へと変化し、現在の競技に至っています。普段あまり見る機会のない「なぎなた」との『異種試合』も披露された。



異種試合

4. なぎなた

鉄砲が戦場の主役に躍り出るまでは、槍や剣などと同様に「なぎなた」も有力な武器として使用されました。その後、この武器は武家の女性の護身用に転用されるようになって新たな活路を見出すことになりました。今日、この「なぎなた」を操作する術は運動競技として再編され、国内のみならず海外までも普及するようになり、世界大会が開催されるまでに成長しています。

5. 創作日本舞踊「新曲浦島」

この作品は、明治の劇作家である坪内逍遙により作られた壮大な浦島伝説の舞踊劇の序曲となります。大海原の荒ぶる波を長唄三味線により表現されています。江戸三大祭の一つ。山王祭の賑わいを描写した曲。神楽や、扇獅子、団扇などを使い群舞により賑やかに踊る。



6.相撲

相撲は我が国の国技として、また文化として今日まで国民に深く愛好されています。直径 4m55cm(15 尺)の円形の「土俵」で勝負が行われ、相手を土俵の外に出すか、相手の足の裏以外の体の一部を土俵につけると勝負が決まるというシンプルなルールです。大相撲(プロ)は体重制限がなく、アマチュアにおいても代表的な大会では同様です。競技特性上大きな選手が有利であり、選手は筋量と体重の増加の為に日々精進しています。しかし、軽量の選手でも巧みな技やスピードで大きな選手に勝つことが出来ることも相撲の魅力の一つです。



7.合気道

合気道は、開祖植芝盛平が日本伝統の武術の奥義を究め、さらに厳しい精神的修行を経て創始した現代武道です。合気道は相手といたずらに強弱を競いません。入身と転換の体捌きと呼吸力から生まれる技によって、お互いに切磋琢磨し合って稽古を積み重ね、心身の錬成を図るのを目的としています。また、合気道は他人と

優劣を競うことをしないため、試合や競技を行いません。稽古を積み重ねていく中でお互いを尊重し、和合の心を学ぶことが出来る武道と言えるでしょう。



8.柔道

柔道は、1882年に嘉納治五郎師範により創始され、現在は、世界の200カ国の国と地域に普及しています。また、1964年の東京オリンピックから正式種目に採用されている日本発祥の武道です。柔道には「柔よく剛を制す」という言葉があり「小さい人でも大きな人を豪快に投げる」という所も魅力の1つになります。本日は、投げられた時の衝撃を和らげ怪我を防止する受身、次に乱取りで用いられる技を多数使用する投の形。そして、実践的な動きの中から連続技、組手から相手を素早く投げるかかり稽古を披露致します。



9.空手道

空手道は琉球王国(現在の沖縄県)で発祥した武術です。空手道の修練は精神修養と身体鍛錬を目的としており、その鍛錬技術は「受け」、「突き」、「打ち」、「当て」、「蹴り」の技により構成されています。一方、空手競技は2020年東京オリンピックに追加種目として採用され、スポーツとしても注目されています。空手競技には「形」と「組手」の試合があります。「形」は仮想の敵に対する攻撃技と防御技を一連の流れとして組み合わせた演武、そして「組手」は2人の選手が1対1で対戦する試合です。



(ワークショップ)



マレーシア空手道連盟交換稽古 (12/Feb/2023)



(約束組手)



(自由組手)



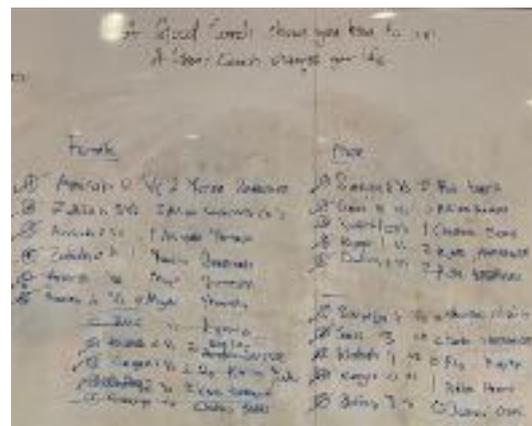






一緒に空手を稽古した陳さん

マレーシア空手道連盟ナショナルコーチ



交換稽古が終わった後、日体大空手部の皆さんにお話しさせて頂いた。

参加した学生の半分は今回初めてパスポートを取得して初めて海外へ。「日体大の皆さんは、大学に入学した時点から、大部分の方が将来の職業を、日本国内で体育教師や警察官等の公務員になる事を決めていると思う。しかし海外では、日本武道の指導者を求められている。いつかのタイミングで一度海外指導の経験をしてから、又日本国内での仕事に就いても、無駄では無いと伝えた」。右の組手試合の表の上段に「良いコーチは試合で勝つ事を教える。偉大なコーチはスポーツ(武道)を通じて人生を変える」という文字が書かれてあった。

ここまでの部分を書いて、日体大の八木沢副学長と空手部の鈴木先生に送信して以下の返事を頂いた。

谷田先生

この度は、わざわざ本学伝統文化交流実習にお運びいただき、誠にありがとうございました。また終了後はろくなご挨拶もできず申し訳ございませんでした。実演会は我々の広報活動不足で思うような来客数ではありませんでした。ご来場いただいた方々には日本の伝統文化の一端をご紹介できたのではないかと感じております。その他の種目別交流会、日本人学校でのワークショップは、いずれも盛況で、学生達には大変良い経験、思い出になったと思います。

また大学にとってはUCSIとの提携ミーティング、マレーシアオリンピック委員会とのMOU締結、本学理事長と私のマハティール元首相への表敬訪問が叶い、大きな収穫を得て帰国することができました。

次年度以降も引き続きマレーシアにおいて実習を行う予定にしております。先生には、引き続きご教示いただきたくお願い申し上げます。

日に日に春に近づいているとは言え、不安定な天候が続きます。先生におかれましてはくれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます。取り急ぎお礼とさせていただきます。

八木沢 誠

谷田茂様

日本体育大学の鈴木です。

この度は、マレーシアまで本学の伝統文化交流実習に、ご出席頂き誠にありがとうございました。谷田先生には、この実習の計画段階から大変お世話になり、誠にありがとうございます。この実習が成功裏に終わることが出来たのは、谷田先生のお陰でございます。心より感謝申し上げます。

また、本日、空手部の主将から、「今回の実習では良い体験、経験が出来ました。特に、マレーシア・ナショナルチームと練習試合が出来たことは、自分にとってかなりのプラスになりました。ありがとうございました。」と連絡がありました。学生にとって大変有意義な実習であったようです。

まだまだ、寒い日が続きます。

先生におかれましては、お風邪など召さぬようご自愛下さい。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

日本体育大学

鈴木一宏

初日の演武会は、私が13年間住んだモントキアラの演武会場で1時から、翌日のMAKAFとの交換稽古は7時半集合、8時からの開始であった。初日の演武会はVIPの到着が遅れ、40分遅れで始まった。先生方はヤキモキされたと思うが、マレーシアではよくある事。「日本では考えられない」と言うと「Malaysia Bole」と返される。「マレーシアでは何でも(起こる)ある」という意味。そんな事態に遭遇した時に「Malaysia Bole」と返すと、「お前マレーシアの事をよく知っているな」と言われる。

2日目のMAKAFとの試合は、マレーシアと日本の時差は2時間なのだが、日本、韓国とのビジネスを円滑にする為、1時間にしているので、6時半は日本の4時半で未だ暗い。我々は「Malaysia Bole」では無く「日本を代表している」ので時間通りに向かう。一緒に行った日本人会の空手部の竹澤先生と「マレーシアの学生は、8時頃からバラバラ来るのではないか」と話しながら行った。しかし全員7時半前に集合していた。交換稽古は、鈴木先生のメールにある様に、白熱した熱気のこもった稽古になった事は、アレンジした者としては大満足であった。日体大では、来年もマレーシ

アで遠征を行うと決定したので、今年の反省の基に、さらに充実した遠征になると思う。

話を1日目の演武会に戻す。公開演武会なので誰でも参加できる。私は壇上のVIP席に座っていたので会場が見渡せる。入ってきた瞬間にフランシスだと分かった。フランシスは、マレーシアに来た時、最初に知り合った合気道のBest Friend。一緒に空手、合気道、少林寺拳法の総合武道道場「不動心道場」を開設した。私が日本人会に空手道場を作った時は、姉弟で入門してくれて、彼らは初期の時期の黒帯。前回のバグースで、フランシス夫人のヘレンが亡くなった事は伝えた。昨年12月に娘のルーズと連絡をとったが返事がなく、未だ「心の整理がつかないのだ」と思って、今年の後半でもマレーシア訪問した時に連絡しようと思っていた。

今回の日体大の演武会は、久しく会っていなかった合気道仲間との再会の場となった。その夜は、フランシスとルーズと夕食を共にした。今後は訪問した際には、食事をすることにした。参加されなかった友人からも、私が来ている事を聞いて、食事の誘いをもらった。今回は時間もないので、次回と伝えた。



合気道の友人とも再会



何故か私の手がルーズの肩に



2人が元気でよかった

12日(日)はMAKAFとの稽古の後、日本人会空手部の第25回となる進級試験を実施。昨年5月から空手部の活動を開始したが、審査を行なっていなかった。3年振りとなる審査を実施。



今回の参加者

今後は年2回の進級試験を実施して、稽古上達の励みとしたい。コロナも収束傾向にあり、マレーシアは電車、バスを除いてショッピングモールでのマスクの着用は個人の判断となった。経済も回りだし、日本からの駐在員も増えてくるものと思われる。

昨年暮れに和道流の地区の責任者をしている方から、突然メールをもらった。教え子のお父さんがマレーシアに転勤になり、日本人会の稽古を見学したいとのメールが入った。本人も既にMM2H(マレーシアの退職ビザ)を取得しており、2年後にはマレーシアに移住されるとの事。日本人会空手部も新たな指導者を得て発展が期待される。この方に「何故、私の事を知ったのか」と聞くと、Googleで調べたと言われた。

16



今回の写真は、ルーズの後の世代の、JustinとEanestのお父さんのKhongさんの撮影。現在銀行を退職して、モスクワオリンピックやデュバイで開催されるワールドカップを訪問している。今回も日体大の演武会場で、迫力のある写真を撮って頂き、今回のバグースに使わせて頂いた。



ワールドカップに参加して日本応援 今回も会場で大活躍

小学生の時に空手を習いに来ていた、Justinはイギリスの大学を出て、Chemistryの大学院生。Earnestは現在イギリスの大学でComputer Scienceを専攻している。Khongさん夫妻は、昇級試験の後の夕食会に参加。話していると8月に日本に来て、大曲の花火大会に写真を撮りに来ると言う。家内が毎年大曲の花火を見に行っていて、毎回誘われていたが参加していなかった。今回はKhongさん夫妻が来るので、大曲の花火大会での再会を楽しみにしている。子供達はそれぞれ育って離れて行ったが、お父さんとの新たな付き合いとなってきた。



Justinの大学卒業式



進級審査の後の夕食会 竹澤駿も参加

今回は3泊5日の弾丸トリップ。2日目、3日目の日体大のの行事の報告が先になったが、1日目はゴルフ友達MacとWongさんとのランチ。昨年12月のMacの息子さんの結婚式の写真をもらった。私は、日本でのゴルフは辞めているが、2人は未だ週に2回ゴルフをやっているらしい。次回はゴルフバッグを担いで、10日間滞在して日本人会の空手にも週末の2回の稽古にも参加しようかと思っている。



ゴルフ友達のMacとWang



昨年12月Macの息子さんの結婚式